



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

## 【箱根駅伝】青学大 2度目の3連覇

「驚異の 10 時間 37 分 34 秒エース黒田“ありがとう”の涙」



往路優勝した青学大が、復路も 5 時間 19 分 26 秒で制し、従来の大会記録を大幅に更新する 10 時間 37 分 34 秒で 3 年連続 9 度目の総合優勝を果たした。往路、復路とも大会新記録の快走で 2 度目の総合 3 連覇は大会史上初の快挙。原晋監督（58）は監督として歴代単独最多の 9 度目の栄冠を手にした。往路 5 区で驚異的な区間新記録をマークし、MVP と金栗四三杯を受賞した黒田朝日主将（4 年）を中心とした「優勝可能性 0%」から始まった世代が「輝け大作戦」を見事に完遂した。

フレッシュグリーンのたすきを肩に掛けたアンカー折田（2 年）の姿が大きくなるにつれ、エース黒田主将（4 年）の目元はどんどん潤んでいった。記録にも記憶にも残る、歴史的な総合 3 連覇を達成。折田、原監督に続き、3 度宙を舞う前にはうれし涙を流した黒田は「駅伝は 1 人の力で勝てるものではない。みんなが役割を全うして総合優勝に結びついたので、みんなに“ありがとう”と伝えたい」と感謝を述べた。

大手町を先頭で駆け抜けたたすきは、次世代へと引き継がれる。「青学の最多連覇数は（15～18 年の）4 なので、それ以上の新しい歴史をつくってほしい」と黒田。学生ランナーとして完全燃焼し、また新たな歴史の誕生を期待した。

（Yahoo ニュース）



ゴール目前の青学大



ゴールテープを切る黒田選手

箱根駅伝とは東京・読売新聞社前～箱根・芦ノ湖間を往路 5 区間（107.5Km）、復路 5 区間（109.6Km）の合計 10 区間（217.1Km）で競う、学生長距離界最長の駅伝競走です。毎年 1 月 2 日から 3 日にかけて行われます。正直今まで箱根駅伝には特に関心がなかったのですが、先日「マラソン大好き T 先生」に誘われて出たシンガポールマラソンを機に関心を寄せていました。テレビで走っている選手は軽々しく走っていますが、実際はとてつもない速さでとても長い距離を走っています。その裏には毎日のつらい練習を続けてきたのだと思います。私も今回初めてマラソンを走って、長距離を走るつらさを身を持って体感しました。足が疲れるのはもちろんですが精神面でのきつさをそれ以上に感じました。しんどくてもう辞めたいと何度も思い、申し込んだ自分を恨むときもありました（笑）ですが、もう少し頑張ってみよう、あと 1 キロだけ走ってみようと思いつつ前に進みながら最後はゴールの喜びを味わうことが出来ました、皆さんもこれからもう辞めたいな、きついなと思うことがあると思いますが、自分に甘えてやめるのではなく、もう少し頑張ってみようと自分を励ましながら前に進める人になってほしいと思います。（山本）